

れいげん

大光山 霊源寺 寺報 第九号



発行：2017年9月

< 住職あいさつ >

今年もまた秋の彼岸会に際し、ご志納下さいましたこと、ご本尊阿弥陀如来さまにご奉告いたしますとともに、感謝申し上げます。

さて、先代住職より引き継いでまいりました霊源寺式場も早いもので30年を越えてまいりました。霊源寺周辺の景色も当時と比べますと随分と変わりましたが、昨今、当寺式場に於きましても、お別れの為の式の形態が随分と様変わりしていることに気が付きました。もちろん、それぞれに合ったお別れのカタチを選択できる様になったことは喜ばしいことではございますが、お弔いの心は変わらずにありたいものです。【咲いた花見て喜ぶならば、咲かせた根っこの恩を知れ】これからも感謝の気持ちで一心にお念仏をお称えし、故人さまをお浄土へとお送りするお手伝いをさせていただき所存でございますので、変わらぬご厚誼とご指導の程宜しくお願い申し上げます。



(住蓮院安楽寺)

< 浄土宗① >

宗祖法然上人のはなし⑨ (承元の法難 編)

法然上人のお念仏の教えは優秀な弟子たちを通して全国に広がり、晩年にはかなりの数の弟子が法然上人のもとに集まっていました。

その中に**住蓮**と**安楽**という大変声の良い二人がおり、二人が称える往生礼賛は各地で多くの人々に感銘を与え、参詣者の中には両人に帰依して出家する人もありました。

建永二年(一二〇七年)のある日、二人は京都東山鹿ヶ谷において往生礼賛を修しました。この時、参詣者の中に**鈴虫**と**松虫**という二人の女性がありました。この二人、実は後鳥羽上皇の近侍の女官でありましたが、住蓮・安楽に帰依し髪をおろして勝手に出家してしまいました。折しも、後鳥羽上皇は紀州熊野権現へ参詣のため留守中の出来事であり、京都へ戻りその事実を知ったのでした。悪いことに当時は興福寺の法師たちが念仏禁止の上奏文をもって強訴し、朝廷側もその扱いに苦慮していた時期であり、その上にこの事件が重なったことで上皇の怒りにふれ、四名とも処刑されてしまったのでした。

比叡山、奈良仏教よりの激しい念仏禁止運動のさなか、弟子の非行は法然上人にまでその罪がおよび、上人をはじめ親鸞聖人などの門弟七名が流罪となりました。

そうして、建永二年(一二〇七年)法然上人は七十五歳にして四国土佐へと流されることになるのです。

(次号へ続く)

〈霊源寺式場ご案内〉

霊源寺では三十年以上、年中無休で本堂を葬祭場として貸出しております。

都内には葬儀業社は数多くありますが、葬儀斎場は少なく、特に当寺は火葬場の目の前にあるということもあり現在に至るまで便利に利用していただいております。

昨今、特に首都圏では様々なお別れのカタチがあり、一日葬やごく少人数での式、火葬場での読経のみの式等、それぞれに合ったカタチを選択できることが当たり前になっています。

霊源寺に於きましても本堂や内仏（庫裏内仏間）を使用し対応が可能です。またご依頼があれば向かいの桐ヶ谷斎場の火葬場炉前での読経、その後、お寺へ戻っての初七日及び四十九日法要なども行っております。

こちらが通常の式場使用料金表となります。

本堂通夜葬儀（二日）	250,000円
本堂一日葬	150,000円
内仏通夜葬儀	100,000円
内仏一日葬	50,000円
火葬場炉前読経	50,000円

※こちらから町内関係者の方、博真閣ご利用者関係の方々に関しましては更にお値引きさせていただきますのでご相談下さい。



（ 本堂葬儀式祭壇例 ）

**本堂式場 1F は椅子席で約 80 席
2F が 30 畳の約 58 席のお清め所と
12 畳の親族控室になっています。**



（ 霊源寺内仏 ）

庫裏内仏は 20 畳ひと間となります。

◆行事予定

平成 29 年 9 月 25 日(月) 午前 11 時より

・秋彼岸法要

平成 30 年 3 月 (予定)

・春彼岸法要

◆編集後記

いつもお読みいただきありがとうございます。
法然上人が生きた時代（平安末期から鎌倉初期）は日本史上においてもかなり物語性のある時代で、教科書や歴史モノの映像、文芸作品にもよく登場します。承久の乱の後鳥羽上皇や「敦盛」の熊谷直実、平安末期の朝廷内でドロドロの政権争いの中心にいた九条兼実などのお馴染みの物語の主役たちの歴史モノではやらない、教科書にも載っていないエピソードを浄土宗の歴史を通して知ることができるのはとても興味深いです。

（中村尚平）

◆次号予告

次号は平成 30 年 3 月の発行予定です。

〒142-0063

東京都品川区荏原 1-1-2

宗教法人 大光山霊源寺

TEL03-3494-1083 FAX03-3494-6319

Mail: reigenji@gmail.com

ホームページ: <http://reigenji.konjiki.jp/>

発行人/太田眞琴